

11月19日まで

国立アイヌ民族博物館 第7回特別展示

考古学と歴史学からみるアイヌ史展 - 19世紀までの軌跡 -

アイヌ民族は19世紀まで、北海道、樺太、千島、東北北部などで固有の文化を築き、その周辺のさまざまな民族・文化との接触を重ねながらその特色を際立たせ、時代とともに変化を繰り返してきました。現在、200~300年前に見られた文化が先祖から受け継いだアイヌ文化とされていますが、太古から200年前までにどのように形づくられ、受け継がれてきたかを、考古学と歴史学の成果を取り入れた全6章約320点の資料を駆使してあらためてたどる展示内容です。

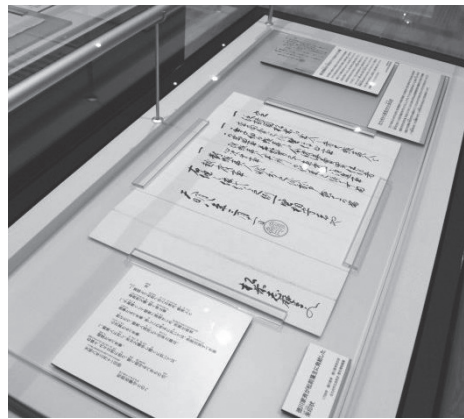
土器や石器、動物の歯・骨角などさまざまな素材に、アイヌ文化で重要な要素「クマ」を意匠する続縄文文化



アイヌ社会の中で機能するイコロ（宝物）から地域を超える交流が垣間見られる



14世紀ごろから和人の北海道定住が進み、アイヌが住む土地の中に和人の地との境界線が生まれ始めました。写真は初公開の徳川家綱朱印状（北九州市立自然史・歴史博物館）



【 11月3日(金祝)・4日(土) 「アイヌアートショー2023」 】

各地のアイヌアーティストや工芸作家によるアイヌ工芸品やアート作品の展示・販売をします。アーティストトークもあります。

【 11月3日(金祝) ウポポイ無料開放のお知らせ 】

ウポポイ入場料と博物館特別展示観覧料が無料です。ウポポイで実施する有料体験プログラム、駐車料金は通常通り有料です。